

## 大阪府立たまがわ高等支援学校 令和2年度 第1回 学校運営協議会の概要

- [1] 日時 令和2年7月8日(水) 午前10時30分～11時45分
- [2] 場所 大阪府立たまがわ高等支援学校 会議室
- [3] 出席 協議会委員6名 事務局員8名
- [4] 内容
  - 協議会委員自己紹介及び事務局員紹介
  - 1 開会の挨拶
  - 2 事務局から説明
    - (1) 学校運営協議会実施要項
    - (2) 平成31年度学校経営計画及び学校評価について(報告)
    - (3) 令和2年度学校経営計画及び学校評価について  
進路指導の状況について(報告)  
生徒指導の状況について(報告)
    - (4) その他
  - 3 協議
  - 4 閉会の挨拶
  - 5 諸連絡

### 議事録(抄録)

《議事録中、●は協議会委員です》

○協議会委員自己紹介及び事務局員紹介(委員等の詳細は本ホームページ内別掲)

#### 1 開会の挨拶(校長)

本日はご多用の中お集まりいただきありがとうございます。社会の情勢が変わり、生徒の質も変わってきている一方、企業の理解が進んでいると感じている。コロナ禍で経済の痛手があり、卒業生が心配。また、特に3年生は就労について不安があるが、関係機関と連携して取り組みたい。今後の予定もかなり不規則で見通せないことが多いが、みなさんのお知恵、ご意見をいただいてどのようにすすめていけばよいか考えたい。忌憚のないご意見をお願いしたい。

司会：今年度の協議会会長は、●様をお願いいたします。 → 一同了承。

#### 2 事務局から説明

##### (1) 学校運営協議会実施要項 (校長)

学校運営協議会は、学校の経営方針についてご意見を賜り、ご承認をいただく、また、大きな方針を議論していただく場。校長に意見する第三者会議はこの場しかない。もちろん守秘義務はある。年間3回開催の予定。内容は学校ホームページにも掲載。

(2) 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価について（報告） （校長）

昨年度、第 3 回の学校運営協議会で承認をいただいた内容。◎、○、△で評価している。

(3) 令和 2 年度 学校経営計画及び学校評価（校長）

1 めざす学校像

昨年度と変わっていない。昨年度の第 3 回の協議会で承認済み。開校当時のコンセプトから大きく変わっていない。

2 中期的目標

1. 外部への発信は昨年と同じ。

2. (1) マッチングを基本とした進路指導についても項目は同じ。昨年度と比べて「離職率 5%以内」を追加。

(2) 「キャリア発達につながる支援教育の充実」を追加。授業で取り組みたい。

(3) 「卒業後を見すえ」を追加。

3. 進取の機運に富んだ校内体制について。今年度は校内研修ではなく、校外の「関係機関との連携のさらなる充実」をおこないたい。

3 本年度の取り組み内容及び自己評価

今後の情勢でできることとできないことがあるかもしれないが、今年度はこのままで進め、進捗についてはご報告をする。

1 外部への発信

(1) 中学校等 3 年生対象の体験授業は中止になった。見学者のべ 90 人以上も、先日の見学会は 2 社だったが、この時期に来てくださる会社がある、とポジティブに考えたい。

(2) スポーツの全国大会はほぼ取りやめになっている。各校との情報交換は頻繁におこなっている。

(4) たまがわランドについては、「たまがわマルシェ」として実施するが、保育園との交流は中止になり、福祉事業所との連携も難しいと考えている。たまフェス来場者 800 人以上も、今の状況では考えられない。中止または形を変えて行うなど、従来通りは難しいため、模索中。

2 進路指導体制の確立・教育活動の充実

(2) ウ ICT の活用について

短焦点プロジェクターは導入の予定。Wi-Fi 環境の整備は進めていきたい。オンライン授業については、双方向は物理的に難しい面もあるが、できるだけそれに近い形でやっていきたい。

(4) T ノートは 6 月から本格導入。活用については次年度に向けて改善したい。

(5) イ 全国大会は、今年度は難しい。

### 3 校内体制

- (1) 校内研修は実施できるかどうかわからないので、早めに中止した。
- (2) イノベーション委員会は T ノートの活用について、分析、改善を検討して総括する。また、キャリア発達プランニングマトリックスの指標を、試案ぐらいまで作りたい。

### 質問

- 委員：「コグトレ」とはどんな内容ですか。  
校長：認知機能を向上させるトレーニング。他校では、授業の前後に取り入れているところもある。本校ではアセスメントとして取り組み始めたところ。
- 委員：週に1回取り組んでいる。同じ動きでも、からだの使い方がうまくできるかどうか、アセスメントにつながっている。一人ひとりの特性、得意不得意を見つけ、向上もできる。  
  
●委員：4月から2ヶ月以上のブランクがあり、休校中の生徒の状況を心配していた。学校からのアプローチはどんな内容だったのか。  
校長：新学期だったので、担任やクラスメートがわからないままだった。入学式も6月。電話で状況を聞き、週に1回学習プリントを郵送していた。学校ブログに動画をあげ、パスワードを入れて視聴できるようにしたが、全員ではなかった。
- 委員：今後のことは見通しがつかないので、また登校できなくなることを想定して取り組んでいる。郵便や ICT に加えて LINE を有効に使うことができるよう、登校しているときに LINE の使い方を練習している。課金などの問題もある。  
校長：大阪府は G Suite for Education を活用しようと考えている。情報の授業で練習を始めている。Wifi があるかないかの確認もしているが、不安定であるうえに修復が難しい。
- 委員：ネットトラブルの教育は。  
校長：YouTube は「共有」が怖いので使っていない。

### ○進路指導の状況について（報告）（事務局員）

#### 1 12 期生進路状況について。

卒業生 68 名中 63 名が就職。就職率は 93%。

今回初めて、公務員としての就職があった。大阪市の公務員募集に応募して、2 名が事務の仕事、1 名が管理作業の補助で採用。面接だけの採用試験で、職場実習をしていないので心配だったが、今のところ 3 名ともがんばっている。また、その他の就職した 60 名についても、コロナウィルスの影響で自宅待機やテレワークなど不安が大きい社会人生活の始まりになったが、全員ががんばっている。5 月中はなかなか様子を見に行くことができない状況だったが、6 月から順次、就・の担当者と一緒に会社訪問ができるようになった。

他、未定の 1 名は学校への登校が安定していなかったため、就労や福祉事業所との連携までできなかったが、就・と居住地域のサポートステーションにつなげた。

2 コロナウィルスによる変更点について。

1、2年生は、例年6月におこなう学習が、9月に延期されたが、内容は今のところ例年通り実施できそう。

3年生は進路関係の予定が多いので、変更も多くなった。全員を集めておこなう説明会や懇談会は実施できないため、中止にせざるを得ない状況だが、個別の懇談会などの対応で、内容についてはしっかり伝えていく。

質問

●委員：大阪市の公務員は3年の年限があるが、そのあとはどうなるのか。

事務局員：公立の施設なので、障害者就業・生活支援センターの支援が難しい状況もあるが、勤務先での支援をお願いしている。

●委員：コロナウィルスによる実習先への影響は。

事務局員：実習を断られたケースもあり、昨年より実習先は少なくなっているが、なんとか全員実習を設定することができている。

○生徒指導の状況について（報告）（事務局員）

1 指導案件の近況

- (1) コミュニケーショントラブルは、言葉のかけ方、からかいやちょっかい、そんなつもりではなかった、友達のつもりだった、SNSでのトラブルなどが多い。マイルールによる自分勝手な判断でトラブルになっている。
- (2) 触法行為では、飲酒、喫煙がある。家庭環境や地域の行事などでハードルが低くなっている。からだに影響する重大なことで、家族にも迷惑をかけることになる。
- (3) ネットトラブルは、グループラインでのトラブルが多い。言葉や画像でのからかいで、被害生徒は大きなストレスを感じている。

2 いじめ対策

生徒、保護者への周知は学校ホームページで掲示している。学校生活に慣れ、コミュニケーションが増える頃に生徒に指導する。早期発見するために、アンケートを年4回実施。全員が安心安全に学校生活を送ることができるように、学校として組織で取り組むことが大切。被害者、加害者の経過観察を3か月見守り、支援する。また、保護者との連携も大切にしたい。

3 生徒指導

通学指導や廊下巡回などを実施。また、生徒の自発的な行動を促す指導では、相談室の整備をすすめている。休憩するところではなく、困ったときにクールダウンする場所として落ち着くことができるよう、生徒会の生徒を中心に自分たちで考えて室内を整備している。

#### 4 スクールソーシャルワーカーの活用

保護者の困り感を相談している。不登校、愛着障がいなど、教員だけで解決できないことを相談。年間 36 回、1 回 6 時間で活用。関係機関との連携に同行することもある。

#### 質問

●委員：スクールソーシャルワーカーの内容について、教えてほしい。

校長：不登校への対応では、家庭環境を整えることが多い。子ども見守り相談センターとの連携もおこなっている。

●委員：卒業すると、解放感がある一方職場での不安もある。卒業生同士の新たな力関係ができることがあり、そのことによる精神面への影響が大きい。卒業後を見据えたご指導をお願いしたい。

●委員：生徒の心の問題は心配。コロナウィルスで部活動や行事ができなくなっている。

校長：部活動は再開している。行事も、「しない」ではなく「どうすればできるか」を考えている。子どもの状況については、担任が日頃以上に気をつけている。

●委員：たまがわ高等支援学校は地域の学校として受け入れられている。

●委員：開校当初は受け入れてもらえるかどうか心配していた。地域との連携を大切にしてほしい。町内会が高齢化していて、若い人の力を借りることができる、と思われているのはありがたい。

●委員：支援を受けるだけでなく、できることがあるのはいいこと。

校長：体力の問題もあるが、積極的に考えていきたい。

●委員：生徒を守るために学校で何ができるか、資料を見てまとめて次回に臨んでいただきたい。

#### 4 閉会の挨拶（校長）

今後どのような状況になるかわからないので明確なことは言えないが、今までの環境、質を保っていきたい。

#### 5 諸連絡（司会）

次回は 12 月に実施の予定。